

平成26年度第3回

中小企業景況調査報告書

平成26年10月～12月期 報告
平成27年 1月～ 3月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 26 年 10 月～12 月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 千葉市土気商工会、袖ヶ浦市商工会、鎌ヶ谷市商工会、富津市商工会、南房総市朝夷商工会、匝瑳市商工会、いすみ市商工会、印西市商工会、成田市東商工会、多古町商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 164 企業

2. 調査対象期間 平成 26 年 10 月～12 月を対象とし、調査期間は平成 26 年 11 月 5 日～11 月 15 日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業 種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	27	16.5
建 設 業	27	16.5
小 売 業	45	27.4
サービス業	65	39.6
合 計	164	100.0

(2) 業種別構成

① 建設業

業 種	回答企業数	構成比(%)
総合工事業	16	59.3
職別工事業	8	29.6
設備工事業	3	11.1
合 計	27	100.0

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	29.6
家具・装備品製造業	1	3.7
印刷・同関連業	1	3.7
プラスチック製品製造	3	11.1
窯業・土石製品製造業	1	3.7
金属製品製造業	5	18.5
一般機械器具製造業	4	14.8
精密機械器具製造業	1	3.7
その他の製造業	3	11.1
合 計	27	100.0

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比(%)
各種商品小売業	1	2.2
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.3
飲食料品小売業	17	37.8
自動車・自転車小売業	3	6.7
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.9
その他小売業	14	31.1
合 計	45	100.0

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比(%)
一般飲食店	24	36.9
宿泊業	4	6.2
運送業	2	3.1
自動車整備業	10	15.4
洗濯・理美容業	15	23.1
その他のサービス業	10	15.4
合 計	65	100.0

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

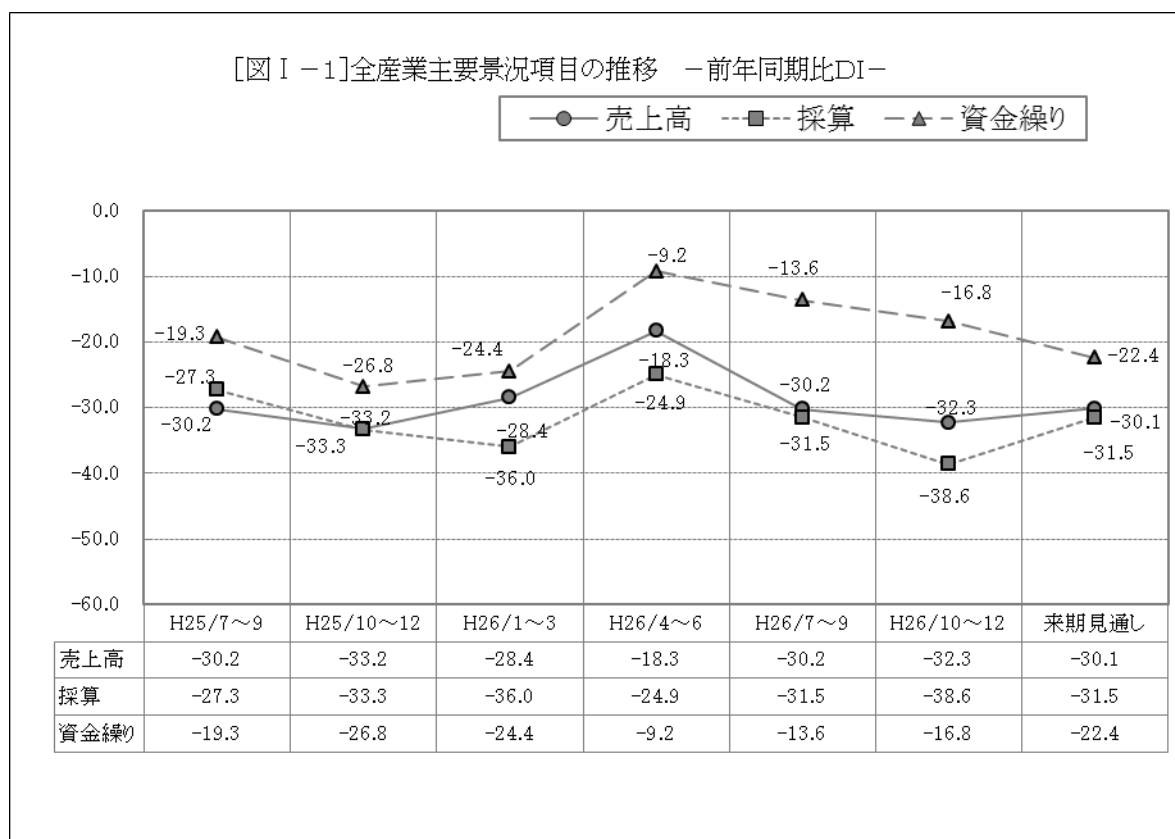
“個人消費の低迷と物価上昇により、景況はさらに悪化“

千葉県商工会地区の平成 26 年 10～12 月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図 I-1]に示したとおり、今期売上高 DI 値は-32.3、前期（平成 26 年 7～9 月期、-30.2）比で 2.1 ポイント減、同採算 DI 値は-38.6、前期（-31.5）比で 7.1 ポイント減、同資金繰り DI 値は-16.8、前期（-13.6）比で 3.2 ポイント減といずれもマイナス幅は拡大しており、景況感は悪化している。

また、前年同期（平成 25 年 10～12 月期）調査と比較してみると、売上高 DI 値は、前年同期（-33.2）比で 0.9 ポイント増、マイナス幅は縮小している。採算 DI 値については、前年同期（-33.3）比で 5.3 ポイント減、マイナス幅が拡大、資金繰り DI 値は、前年同期（-26.8）比で 10.0 ポイント増、マイナス幅が縮小しており、資金繰りは改善しているものの、原材料等の高騰で採算は悪化している。

今期は、前期同様、売上高・売上単価・利用客数・新規受注数の減少、原材料費の高騰等マイナス要因が多い。原油価格下落により、燃料価格については改善されたが、円安による原材料等の高騰は継続しており、製造業を除くと、景況感は悪化したままとなっている。














また、来期（平成 27 年 1～3 月期）についても、先行きの不透明さがあり、製造業、建設業については全ての項目でマイナスの見通しとなっている。小売業、サービス業については、売上高・採算についてはプラスの見通しを立てているが、資金繰りについては、マイナスの見通しとなっている。



Ⅱ. 各産業の景況

1. 製造業の景況

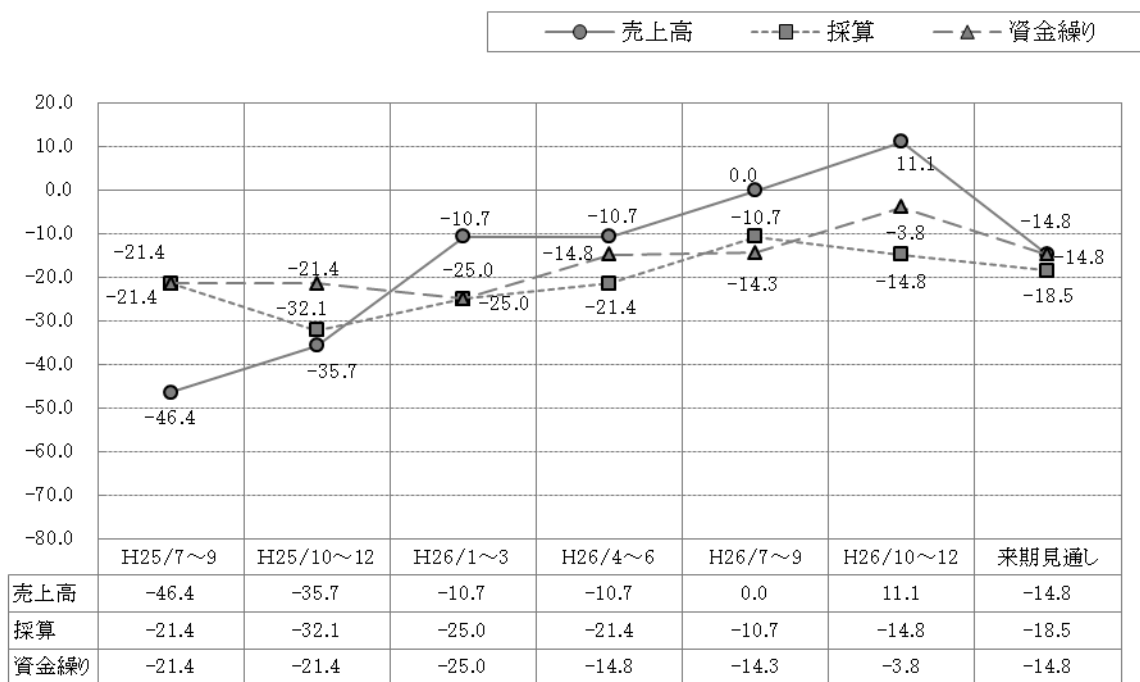
“業況良化傾向続くも、先行きの不透明感が強まる”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

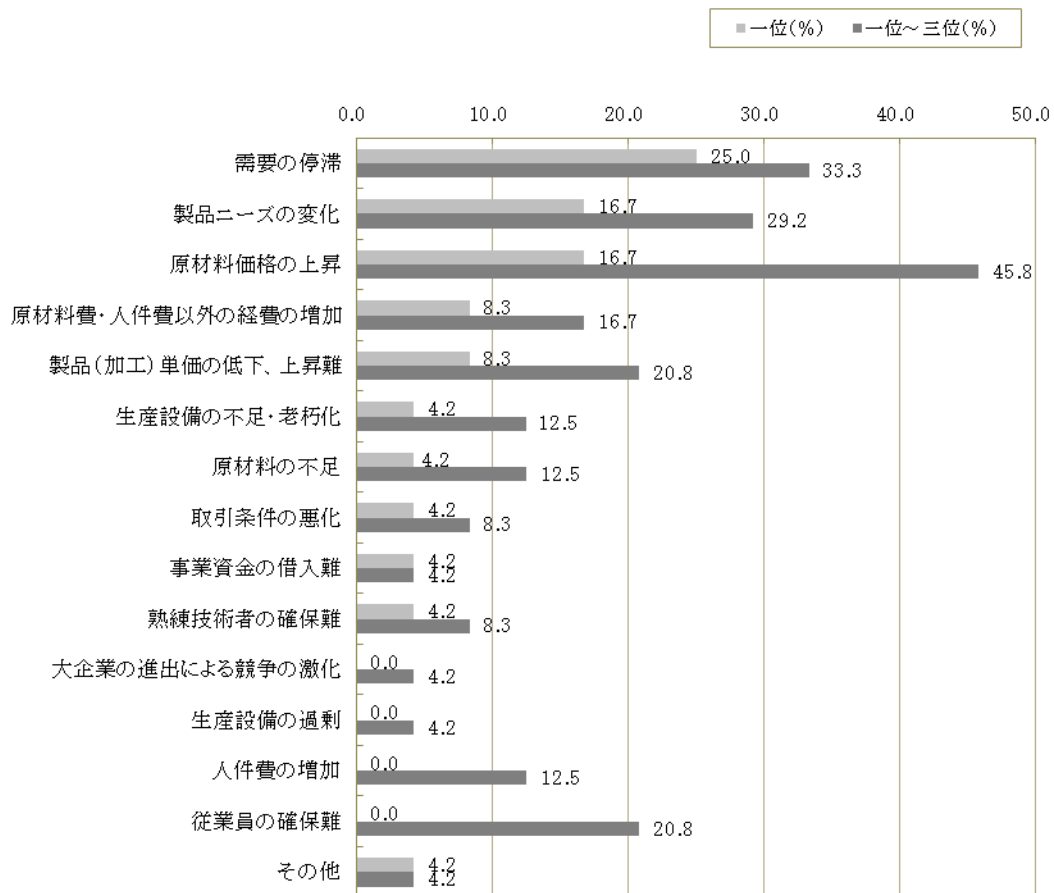
千葉県商工会地区における製造業の景況は、前期同様、円安と大企業好況の影響が大きく、受注量は引き続き増加し、設備操業度も若干上昇している。今期のDI 値については、原材料高騰の影響により採算は悪化しているが、売上高、資金繰りは改善されており、回復基調が続いている。一方、来期については、受注残や引合い件数が減少傾向にあることから需要は停滞するとの見方が多い。また、原材料高騰等コスト上昇については、引き続き懸念材料となっており、全ての項目について、悪化すると予測している。

今期は新規設備投資については3社が実施。内訳は、工場建物、生産設備、車両・運搬具が各1社となっている。また、来期計画では工場建物が2社、生産設備が1社予定されている。

[図Ⅱ-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -
















[図Ⅱ-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“受注額減少が続き、業況は悪化”

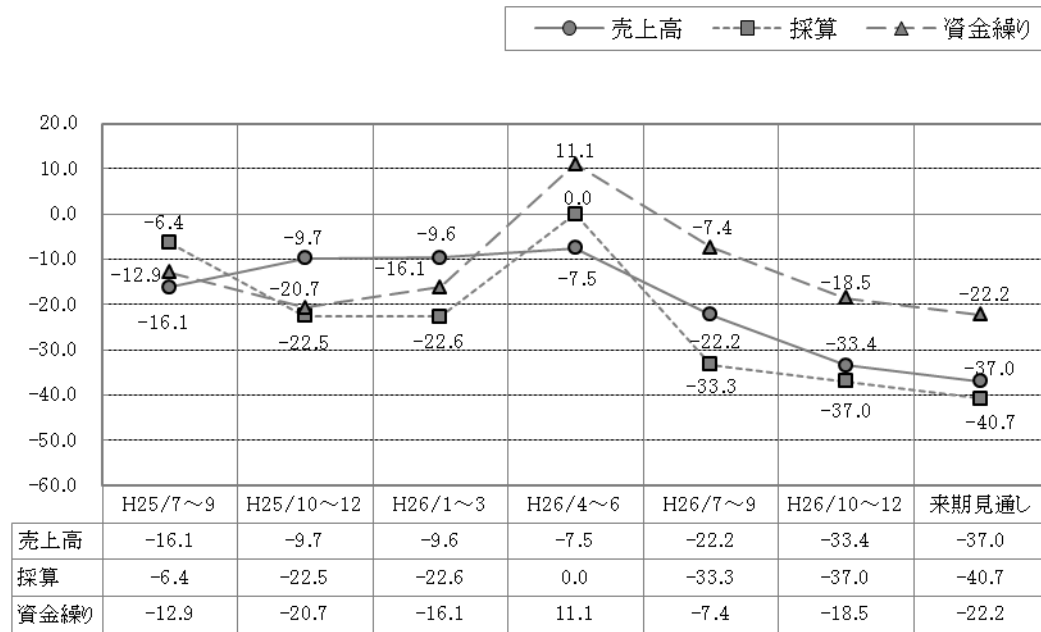
	今期の景況	来期の見通し	
			 :DI 値 +30～
売上高			 :DI 値 +10～+30
採算			 :DI 値 +10～-10
資金繰り			 :DI 値 -10～-30
総合			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、特に民間需要が停滞していることから、新規契約工事の減少が目立ち、売上高 DI 値は-33.4、前期 (-22.2) 比で 11.2 ポイントと大幅に減少。また、前期同様、人材不足や資材高騰、請負単価の上昇難といった要因もあり、取引条件は悪化している。結果として、採算 DI 値は-37.0 で、前期 (-33.3) 比で 3.7 ポイント減少、資金繰り DI 値は-18.5 で、前期 (-7.4) 比で 11.1 ポイント減少と、全ての項目で悪化している。ただし、職別・設備工事については、受注額を増やしている企業も多く、業種によるバラツキが確認できる。

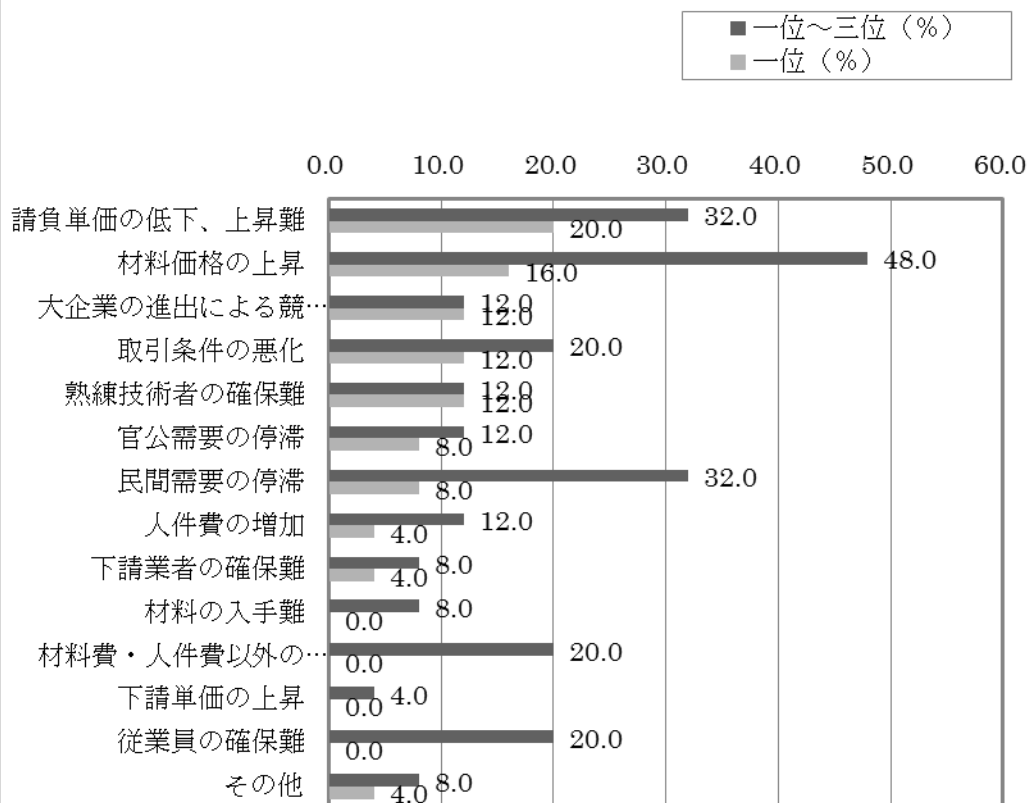
来期についても、引合い数、未消化工事高が減少していることから、需要の回復は見込めず、厳しい状況が続く見通しである。また、請負単価の上昇難や資材高騰等コスト上昇が経営上の大きな問題点となっており、採算面・資金繰り面については、引き続き注意が必要である。

新規設備投資については、1社が実施しており、車両・運搬具を導入。来期計画は4社で、建物、車両・運搬具、付帯施設の導入を予定している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“消費回復が遅れ、景況感は下振れ”

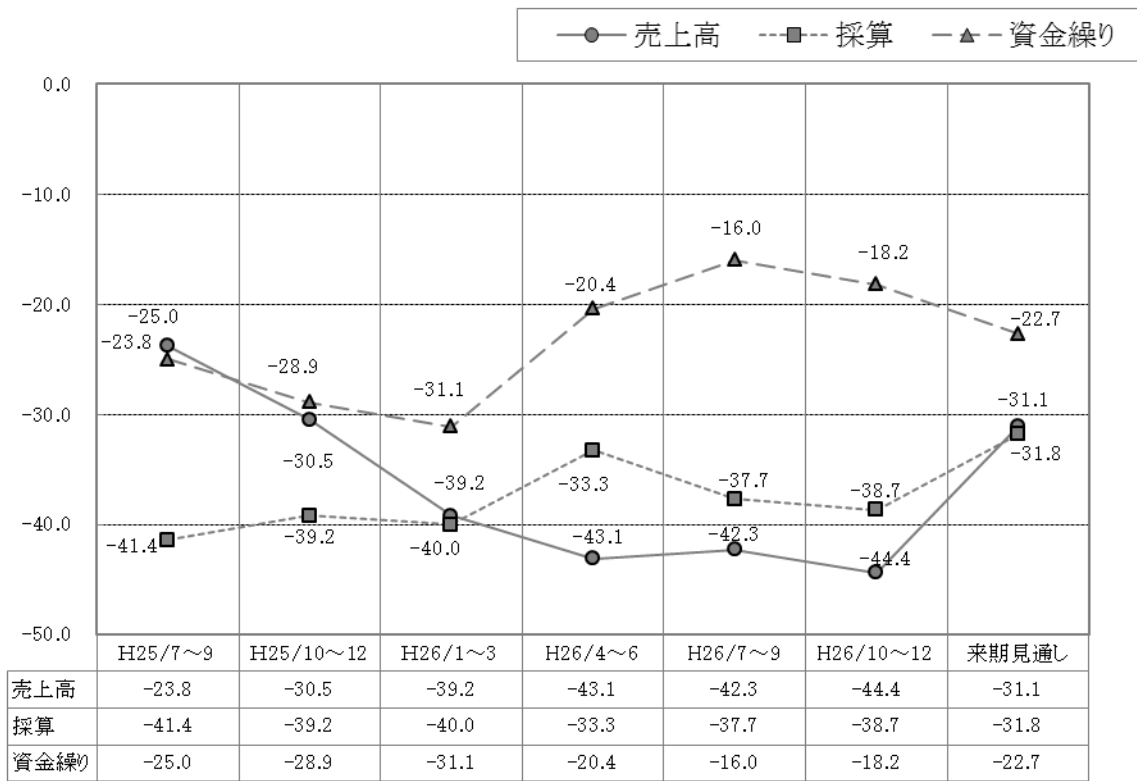
	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～  :DI 値 +10～+30
採算			 :DI 値 +10～-10
資金繰り			 :DI 値 -10～-30
総合			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における小売業の景況は、個人消費の回復が弱く、停滞感が強まっている。売上高 DI 値は-44.4 で、天候不順が影響した前期 (-42.3) よりも 2.1 ポイント減少しており、前期の見通し値 (-31.2) に比べ回復が遅れがある。本来、年末商戦で消費が回復する時期であるが、実質所得の低下による消費マインドの冷え込み、大手企業との体力差もあり、客数・客単価ともに減少、小規模事業者にとっては厳しい環境となっている。また、仕入単価の増加は続いており、価格転嫁が困難なことから、採算 DI 値、資金繰り DI 値も悪化している。なお、来期については、資金繰り DI 値以外は、改善すると予測している。

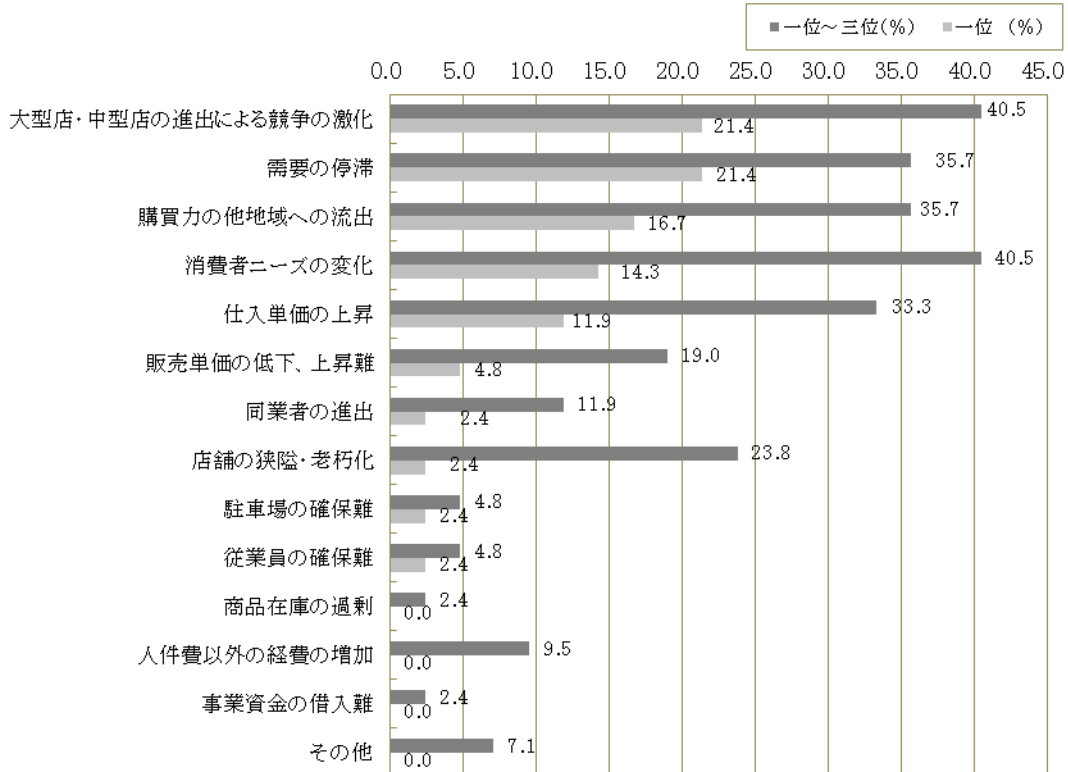
また、需要の停滞、消費者ニーズの変化に加え、大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出を経営上の問題点としてあげる企業は相変わらず多く、顧客の囲い込みが大きな課題となっている。

新規設備投資については、5社が実施。店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設等を導入している。また、来期計画は2社で、店舗、販売設備の導入を予定している。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“消費低迷と利幅低下に苦しむ”

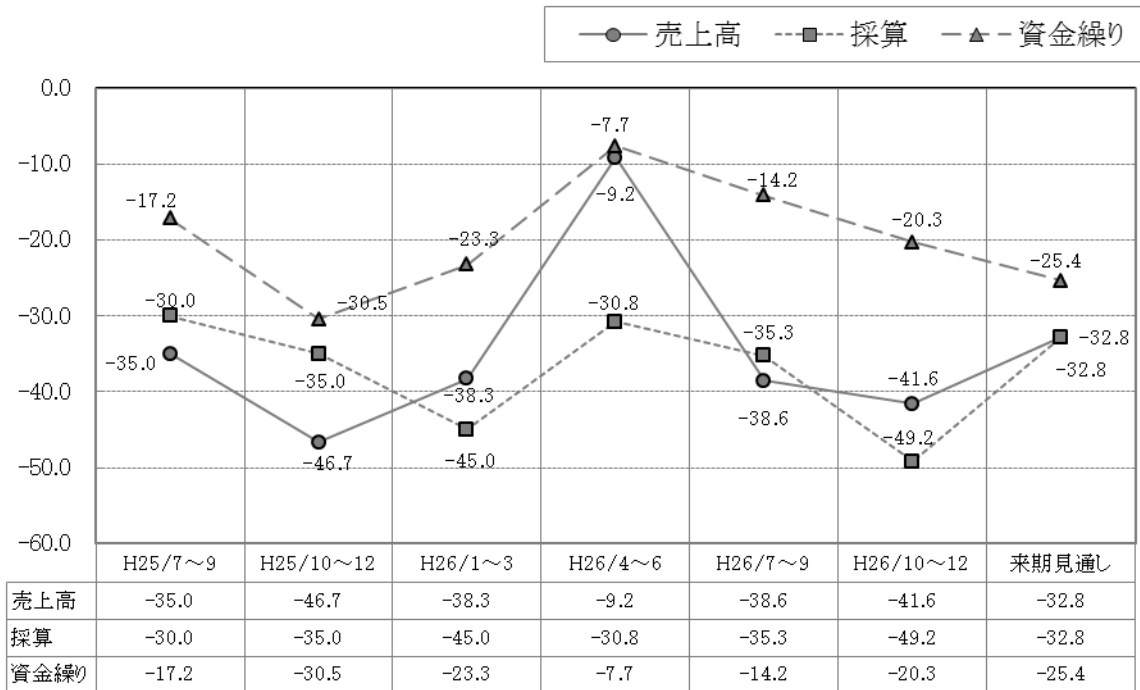
	今期の景況	来期の見通し	
			 :DI 値 +30～
売上高			 :DI 値 +10～+30
採算			 :DI 値 +10～-10
資金繰り			 :DI 値 -10～-30
総合			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、消費マインドの冷え込みが続き、全ての項目で悪化している。特に採算 DI 値は-49.2 で、前期 (-35.3) 比で 13.9 ポイント減少しており、大幅に悪化している。前期に比べ利用者ニーズの変化、需要の停滞を経営上の問題点とする企業が増えており、利用客数が減少している。また、燃料価格は改善されたものの、材料等仕入単価の高騰が続いていることから、消費の低迷に加え、コスト上昇分を吸収できていない状態にあり、厳しい経営環境といえる。

来期については、資金繰り DI 値以外の項目については、改善すると予測しているが、消費者ニーズに対応したサービス開発等経営力向上への取組みが早急に必要と思われる。

新規設備投資は増加しており、8社が実施。内訳はサービス4社、車両・運搬具3社、OA機器1社となっている。また、来期計画も6社あり、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設等の導入を予定している。

[図Ⅱ-7] サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8] サービス業 経営上の問題点の状況

